



ヴェルサイユ条約後のドイツ



東南ヨーロッパと小アジア 1918年以降

講和締結(1919-20)

1919. 1. 18. 講和会議開会(パリ、外務省) 勝利国27ヵ国から代表20人。議長はフランス首相クレマンソー。敗戦国代表は加わらなかった。会議の中心は「十人会」(アメリカのウィルソンとランシオン。イギリスのロイド・ジョージとバルフォア。フランスのクレマンソーとピション。イタリアのオルランドとソニエーノ、日本の西園寺公望と牧野伸顕)であったが、後に「四巨頭」(ウィルソン、ロイド・ジョージ、クレマンソー、オルランド)による。講和原則であるべきウィルソンの「14ヵ条」は、秘密条約で決められていた協同国の戦争目的であったため、しだいに後退する。

1919. 5. 7. ドイツ代表団(外相ブロックドルフ＝ランツァウ伯)に講和条件手交。ドイツは文書で若干の修正を勝ちとったにすぎなかった(特にオーバーシュレジエンの人民投票)。

1919. 6. 16. 連合国は条約の調印を最終的に要求する。ドイツ国民議会は、自国領への進駐の危険があるために不承認調印に同意する(237票対138票。反対は民主党、ドイツ人民党、ドイツ国家人民党)。ブロックドルフ＝ランツァウが辞任する。

1919. 6. 28. ヴェルサイユ条約調印(ヴェルサイユ宮殿「鏡の間」)で行われる。ドイツ側はヘルマン・ミュラー外相、ベル植民・交通相)。

条約内容(440条)

第1編 国際連盟規約(→p.421)および「進歩的諸国」によりドイツ植民地を国際連盟委任統治とする。

第2・3編 新国境の確定。ドイツは、アルザス・ロレーヌ、ポズナニ、西プロイセン、フルテン地方、メメル地方を譲渡する。ダンツィヒは自由市。オイベン・マルメディ、北シュレスヴィヒ、東プロイセン・オーバーシュレジエンの一部では人民投票を実施する。ザール地方は15年間国際連盟の管理下に置かれる。炭田の所有・採掘権はフランスに譲渡する。

第4・5編 ドイツは、外国および植民地における権益を放棄。連合国委員会による軍艦監視、軍需品全体の引渡し。陸軍は10万以下とし、参謀本部は解散。ライン東岸50キロまでの全要塞を破壊。武装解除および連合国委員会による監視。

第6編 戦争捕虜・兵士の墓に関する規定。

第7編 戦争犯罪人の引渡し(ヴィルヘルム2世は裁判にかけられるべきである)。

第8編 戦争責任の確立による賠償理由(231)

条。連合国政府は、ドイツ国およびその同盟国の攻撃によって強いられた戦争の結果、その政府の蒙った一切の損失および損害について、責任がドイツ国にあると断定し、ドイツ国はこれを承認する。特別委員会による賠償の決定。現物給付(1,600トン以上の商船、漁船の4分の1、家畜、石炭、ベンゾール、機関車、鉄道車輛、機械、海底電線等)。債務額はブローニョの会議(1920. 6. 21)で決定され(後に変更)、2,690億金マルク、42年の年賦とし、第9-14編 金融、経済、航空、河川輸送、鉄道および国際的労働組織についての規定。ライン左岸地方を担保として3地域に分割、占領。撤兵は条約が正しく履行されれば、5年、10年、15年後に行われること。1920. 1. 10. ヴェルサイユ条約の発効。

1919. 9. 10. オーストリアとのサン・ジェルマン講和条約 プレンナー峠までの南ティロル、トリエステ、イストリア、ダルマチアおよびケルテン・クラインの一部を割譲。ハンガリー、チェコスロヴァキア、ポーランド、ユーゴスラヴィアの独立を承認する。〈ドイツ・オーストリア〉の名称およびドイツへの合併の禁止。保有兵士は3万。

1919. 11. 27. ブルガリアとのヌイイ平和条約 地中海沿岸のトラキア西南地方をギリシアに割譲。しかしブルガリアは海への出口を確保する。保有兵士は2万。

1920. 6. 4. ハンガリーとのトリアノン平和条約 旧ドナウ帝国の構成国として、ハンガリーも戦争責任を問われる。スロヴァキアをチェコスロヴァキアへ、クロアチア・スラヴォニアをユーゴスラヴィアへ、バナート地方をユーゴスラヴィアとルーマニアへ、トランシルヴァニアをルーマニアに割譲する。保有兵力3万5,000。

1920. 8. 10. トルコ政府とのセーヴル平和条約(トルコ議会議により批准されず、→p.451)。ダーダネルス、ボスポラス両海峡の国際化。東トラキア(ガリポリを含む)、エーゲ諸島(ロードス島を除く)、イズミル(背後地を含む)をギリシアへ割譲する。シリアとキリキアをフランスへ、イラクとパレスチナをイギリスへ割譲する。イギリスはまたアラビア(ヘジャズ王国)に対し委任統治権を得る。ドデカネス諸島とロードス島はイタリアに帰属する。アルメニアは独立し、キプロス島とエジプトはイギリスに帰属する。クルディスタン地方は自治を獲得。保有兵力5万。

平凡社

カラー世界史百科

dtv-Atlas zur Weltgeschichte

増補版

